

外国語活動に思う

校長 有馬 重人

数年前から取り組んでいましたが、今年度は全国の小学5・6年生が週1時間の外国語活動を行っています。5・6年生は、年間5時間の英語の勉強の時間があります。

大殿小では、今、外国語活動が積極的に行われています。外国語活動の目的は、言語や文化の理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成です。

場面やテーマに応じた基本的な単語や表現を用いて、声に出してみる活動を行い、言語や文化を理解させるようにしています。

私が以前勤めていた椿西小には、ニュージーランドからのALTのダニエルが来ていました。彼は面白いことを話してくれました。

「ニュージーランドと日本は、赤道をはさんで北と南にあります。日本ではクリスマスはサンタがソリでやってきますが、ニュージーランドでは、季節は夏で、サンタはサーフィンでやってきます。そんな季節だけの違いではなく、子ども達も全く違うのに驚きました。

ニュージーランドの子ども達は、小学生のうちみんなシャイであり活発ではありません。しかし、中学生になると話し合いなどに熱心に取り組み、積極的になるのです。

反対に日本では、小学生のときは積極的なのですが、中学生になると反応がどうにもぶいのです。気候だけではなく、子ども達も全く逆なのです。」

なるほどと思いました。確かに彼の言うとおりで。子ども達の育ちは、気になる部分です。

実は、このダニエルさんとは、性格がよくあいました。彼も私も食べるのが好きでした。彼の好物は、カツ丼、たこ焼き、お好み焼き、焼きそばで、まさにB級グルメでした。私もそうなんです。彼は韓国旅行へも行きましたが、一番の楽しみは焼肉とっていました。こんなことをお話しする私ですが、本当は英語が得意ではありません。いい加減なんです。ジェスチャー、図示、思いつく単語を並べることでわかり合うことができました。「やれば出来るものだ」これが実感です。

英語は、身に付けなければいけないとプレッシャーを感じると重荷になるのですが、コミュニケーションの手段と考えると楽しい時間になると思います。英語嫌いは作りたくありません。新しい世界を知る知的好奇心を伸ばしてやりたいと思います。

英語は、発音やアクセントが独特で、慣れるまでは、すべての単語の発音や意味を理解することはできません。耳に残った単語をつなぎ合わせて意味を考えることになるでしょう。しかし、この作業が、限られた情報から相手の考えをくみ取ったり、相手にわかりやすく説明したりすることができるようになると考えます。つまり、類推する力を育てることになります。

今、学校へ登校しにくい子ども達は、思い詰めて選択肢が他にないという気持ちになったり、新しい人間関係も期待できないと悲観的になったりすると聞きます。

しかし、外国語（英語）はまったく新しい関係を築いたり、現状を打破する力をもっているように感じます。

芸術家「草間彌生さん」は、海外で活躍しています。彼女が話す様子をテレビで見たのですが、日本語混じりの英語を堂々と話しているのです。それが相手に、十分伝わっていることも驚きでした。勢いと自分がしっかりあること、根っこの部分が大切なんだと思いました。

一人でも多くの子が英語好きになり、気持ちをかよわせる手段として活用してくれたらいいなと思っています。外国語活動をしっかり楽しんでほしいと願っています。

大殿たんけん

大殿小地域コーディネーター 大西 豊

天候不良のため、一日延びた2年生の「大殿たんけん」が6月8日にありました。8名の児童が5人ずつのグループに分かれ、それぞれが保護者の皆さんの引率で地域を探検しました。

日頃は、外からしか見ていないお店屋さんや施設の中に入り、さまざまな事を見聞きました。

大殿地域交流センターでは地域の方がどのように施設を利用しているのか説明を聞き、館内を興味深く見て歩きました。普段は見ることの出来ない倉庫の中まで足を踏み入れ、「この部屋はなにをするところですか」「この機械はどのように使うのですか」と尋ね画板の上のノートに説明を書きとっていました。センターの皆さんも子どもたちの素直な気持ちを喜んでおられる様子でした。

今年は3か所、初めて訪問する所がありました。「山口市シルバー人材センター」は子どもたちが理解するには難しい所かなと思っていましたが、翌日お礼に伺いますと、職員の皆さまから子どもたちの訪問が楽しかったと笑顔でお話があり、表情の中に良い結果が出たことに安心しました。予定していなかった障子や襖の張り替えをする作業場を案内すると襖を初めて見た子もいたようで、そこではお年寄りの皆さんと楽しい会話があったそうです。出来て間もない「一の坂デイサービスセンター」では、子どもにはなじみのない施設や介護用品など、初めて見るものばかりで緊張していましたが、職員の方よりお世話するときの説明を聴き、お年寄りの皆さんとお話をし「またね！」と握手しセンターを後にしていました。今回は短い時間でしたが、これからも、こうした交流の場が出来ればと思いました。「指物工房 むらた」では、作業場にある道具類をこの日のために運び込んでいただき木工製品について教えていただきました。

日頃は静かな時間帯ですが、この日はあちらこちらから子どもたちの元気な声が町中に響きわたっていました。地域の皆さんとのふれあい、そして地域の皆さんから学ぶ一日でした。

訪問先の皆さまにはお忙しい中、こころよくご協力をいただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。